

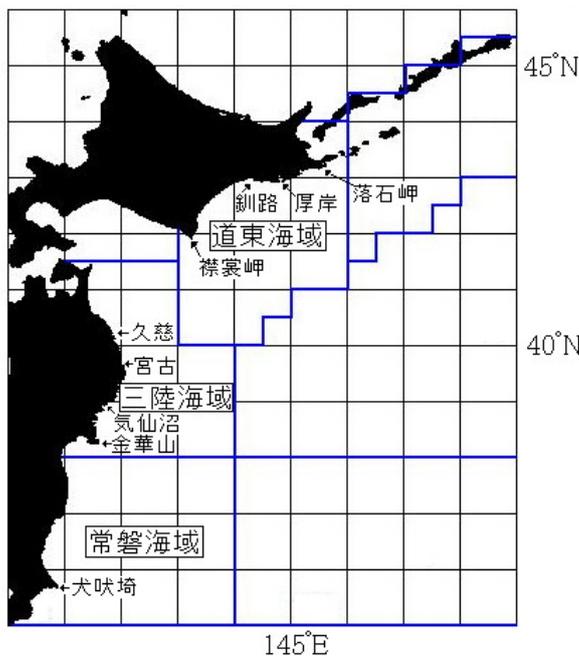
## 2024年度 第5回サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

### 今後の見通し(2024年10月下旬～12月上旬)のポイント

#### 来遊量

- ・道東海域では、10月下旬は低位水準となる。
- ・三陸海域では、断続的な来遊があるが、来遊量は極めて少ない。
- ・常磐海域では、11月中旬になると断続的な来遊があるが、来遊量は極めて少ない。



海域の名称

### 問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 水産情報部  
担当：渡邊、源  
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881  
当資料のホームページ掲載先URL  
<https://www.jafic.or.jp/information/category/gyokyo/>

# 2024年度 第5回サンマ中短期漁況予報

## 1. 今後の見通し

予測期間：2024年10月下旬から12月上旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

### 1) 道東海域

#### (1) 来遊量

10月上旬の主漁場は道東海域よりもかなり沖合の公海であり、道東海域には漁場が形成されなかった。10月下旬～11月下旬の来遊量は、低位水準である。12月上旬は断続的な来遊となる。多くの魚群は道東海域よりも東～南側を南下し、道東近海に来遊する群は極めて少ない。

#### (2) 漁場

10月下旬の主漁場は道東海域より東～南側の公海となるが、道東海域では落石沖の沿岸から離れた沖合を中心に散発的に漁場が形成される。また11月上旬～11月下旬は、落石沖と襟裳岬沖に漁場が形成される。12月上旬は、漁場は形成されない。

### 2) 三陸海域

#### (1) 来遊量

10月下旬～11月中旬は、断続的な来遊があるが、来遊量は少ない。11月下旬～12月上旬は、低位水準となる。

#### (2) 漁場

10月下旬～12月上旬は、三陸南部沖合に散発的に漁場が形成される。

### 3) 常磐海域

#### (1) 来遊量

10月下旬～11月上旬は、来遊は無い。11月中旬～12月上旬は、断続的な来遊があるが、来遊量は少ない。

#### (2) 漁場

11月中旬～12月上旬は、常磐北部沖合に散発的に漁場が形成される。

## 2. 予測の概要

海 域		10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬	12月上旬
道東海域	来遊量	————→	————→	————→	————→	———→
	動向	低位水準	低位水準	低位水準	低位水準	断続的
	漁 場	落石沖	落石沖 襟裳岬沖	落石沖 襟裳岬沖	落石沖 襟裳岬沖	
三陸海域	来遊量	———→	———→	———→	————→	————→
	動向	断続的	断続的	断続的	低位水準	低位水準
	漁 場	三陸南部沖	三陸南部沖	三陸南部沖	三陸南部沖	三陸南部沖
常磐海域	来遊量			———→	———→	———→
	動向			断続的	断続的	断続的
	漁 場			常磐北部	常磐北部	常磐北部

### 3. 漁況の経過概要（10月上旬）

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

今年は、前年同様、道東海域に漁場は形成されず、道東海域における来遊量は極めて少ない。

主漁場は、道東海域より東側の公海であった。1日1隻あたり最高で82トン程度漁獲した船もあったが平均19.5トンであり、9月下旬より減少した。CPUE（1網あたりの漁獲量）は、9月下旬を下回ったが、前年を上回った。これらのことから、魚群は道東海域よりもさらに沖合に分布しており、分布量は前年を上回った。

##### (2) 漁場

道東海域に漁場は形成されなかった。主漁場は、道東海域東側の公海、落石東南東250～280海里と落石東北東410～550海里であった。

落石東南東250～280海里の漁場水温15～18℃では、大型船が5～10隻程度と小型船数隻操業し、大型船で最高43トン、平均8.5トン漁獲した。

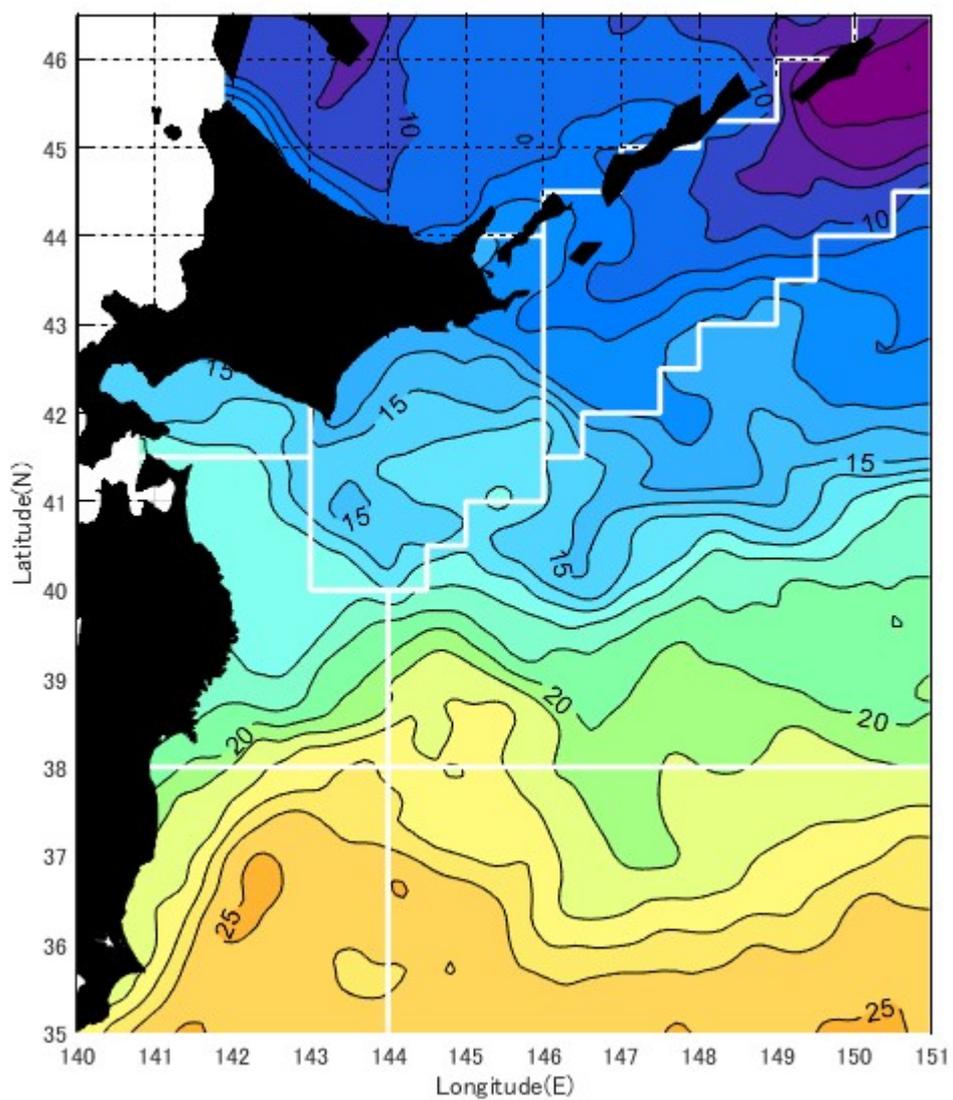
落石東北東410～550海里の漁場水温12～17℃では、大型船が5～20隻程度と小型船数隻操業し、大型船で最高82トン、平均23.0トン漁獲した。

##### (3) 魚体

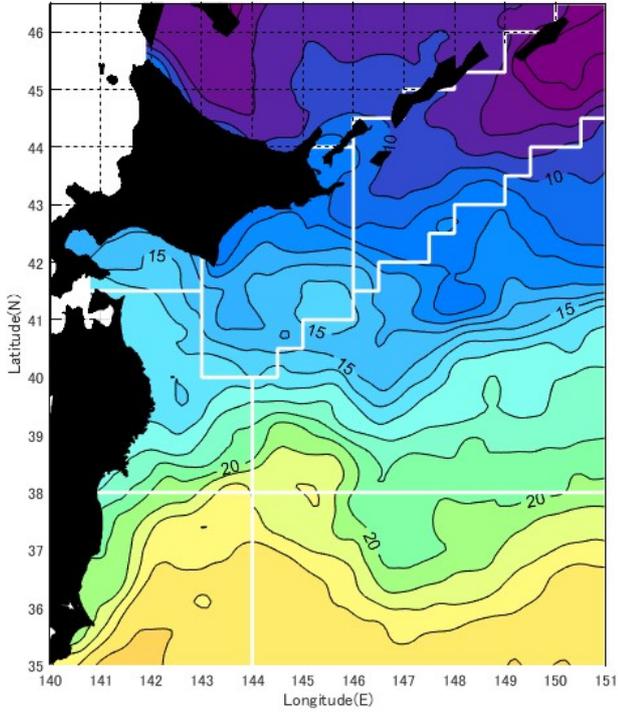
道東海域よりも東側では、体長26～30cmが主体、体重は80～110g台が主体であった。

#### 4. 予測水温分布図

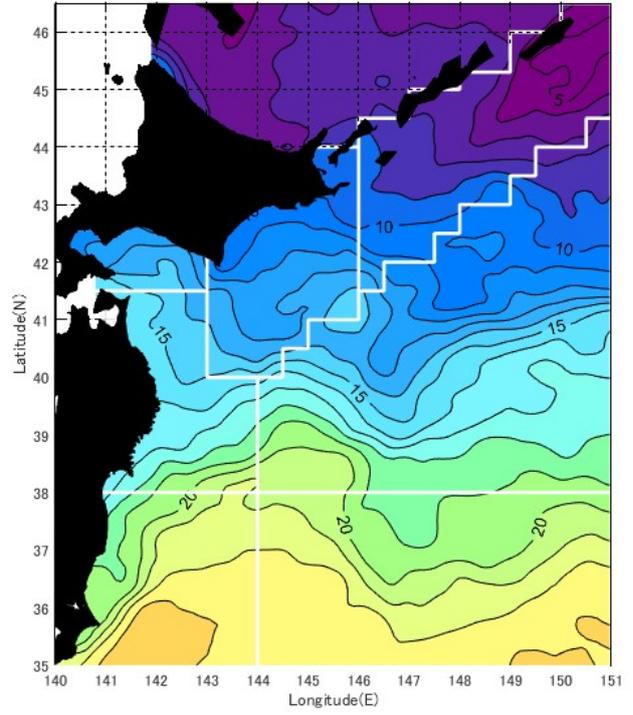
10月下旬予測表面水温分布図



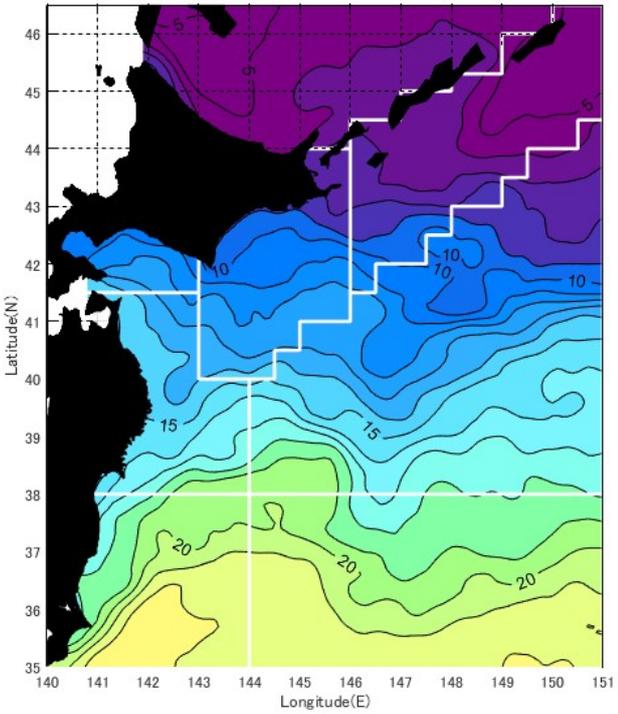
11月上旬予測表面水温分布図



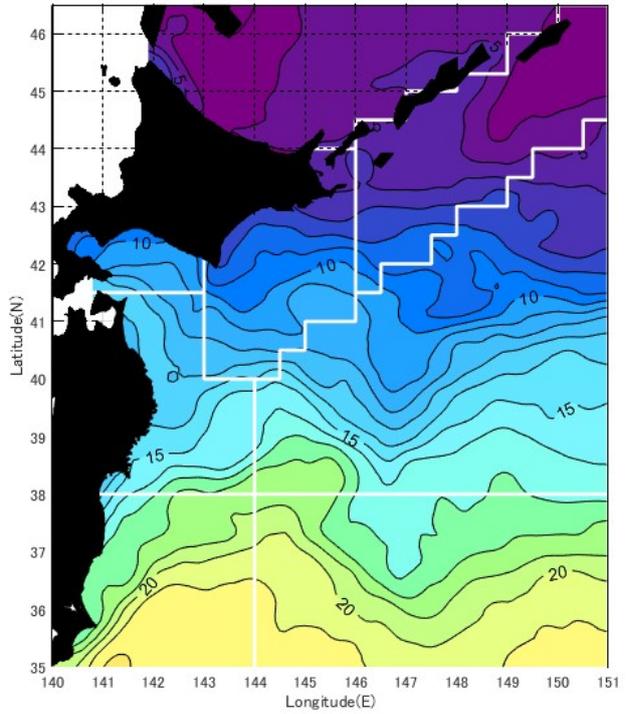
11月中旬予測表面水温分布図



11月下旬予測表面水温分布図

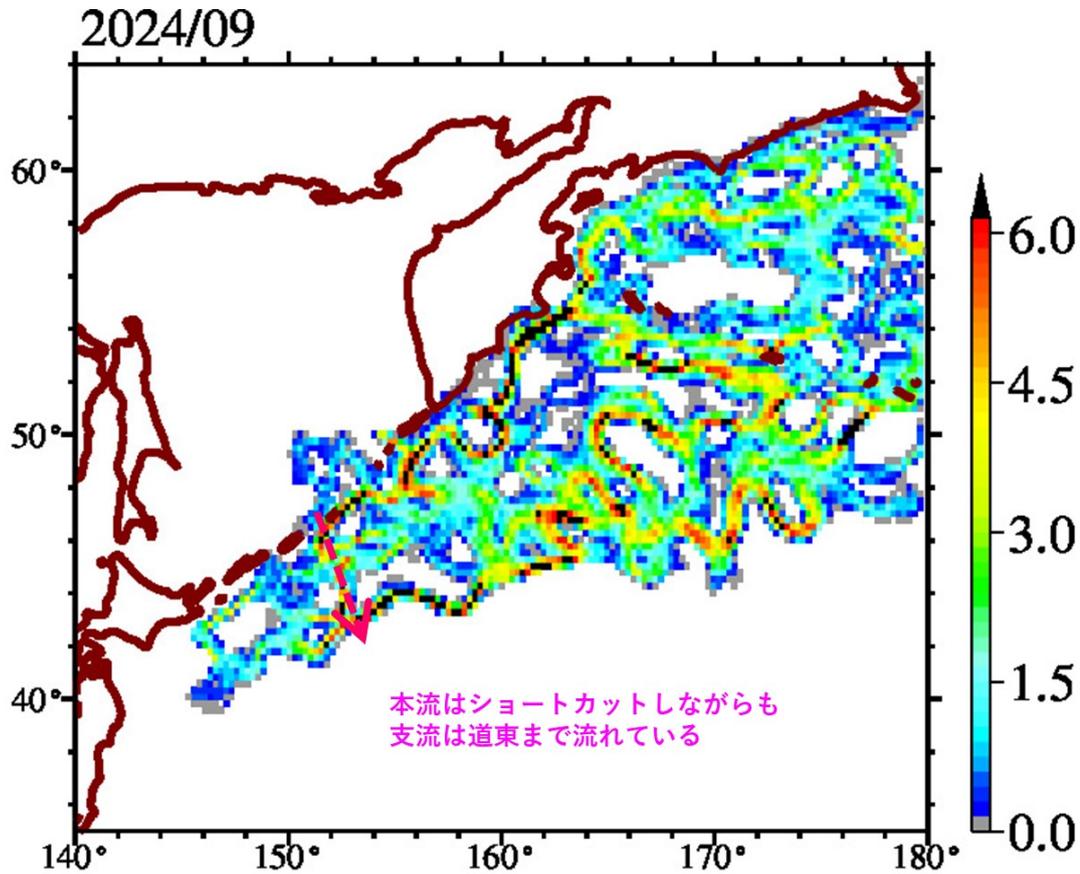


12月上旬予測表面水温分布図



## 5. 付属情報

### 1) 人工衛星による海面高度データに基づいた2024年9月の西部亜寒帯循環の流路



西部亜寒帯循環は北西太平洋亜寒帯全域の海流の循環であるが、親潮はその南西端にあたる。人工衛星の海面高度計によって得られたデータから、この海流の強さと流路を推定することができる。図の黒い線は流れの強い本流を表している。2024年9月において、親潮本流は沖合でショートカットしているが、親潮の支流は道東付近まで流れている。分析方法は、Kuroda et al. (2021)参照。

## 参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産海洋研究センター</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
--	---